

今月の「いいね！」



うどんやくすのき庵

「池田市立くすのき学園」は18歳以上の知的障がいのある方が自立生活に必要な訓練を行い、職業を通して自立することを目的に池田市が開所・運営してきました。平成15年より社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団が池田市から経営を委託され運営されています。

「何かおもしろい取り組みができないか」と考えていたところ、レクリエーションで行った蕎麦打ちがとても楽しかったことから、これを作業につなげられないかと検討し、うどんの製麺をお仕事として取り組む事になりました。さらにこの作業を発展させる形で、平成17年に利用者さんが働く場としてうどん店「くすのき庵」を始められました。

お店の営業は週4日、11時半～14時です。メニューはかけうどんから、ぶっかけ、ざる、てんぷら、カレーうどんなど種類も豊富で、毎日手打ちするコシのあるうどん麺に、毎朝丁寧にとる自家製のだしが好評だということです。

お客様には口コミで少しずつ知られるようになり、地域の方に多く来ていただけるようになりました。座敷席もあることから子連れの若いお母さんの利用も多いそうで、小さな子ども

池田市の静かな住宅街に、池田市立くすのき学園さんが運営する手打ちうどん店「くすのき庵」があります。

向けのメニューもつくられました。「地域の方に親しまれるお店にしたい」という思いが、かたちになっていっているようです。

くすのき学園さんは事業所として、利用者の皆さんが地域社会に出て働く意識や力をつけることを大切に考えられています。その中でくすのき庵は、利用者さんが働くことの実感や自信を持つための大切な実習の場となっています。



事業所
連絡先

社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団
池田市立くすのき学園
池田市五月丘1丁目9番12号
TEL: 072-753-8558 FAX: 072-750-6858

うどんや くすのき庵 池田市渋谷1丁目9番11号



7月からセミナー活動がはじまります。

今年度の経営セミナーは「プロのショップ経営に学ぶ」というテーマで実際に店舗を運営しておられる方をお招きします。また、技術セミナーは「雑貨の製作」、「販促ツールの見直し」、「接客指導」など即活動に活かせる実用的な内容となっています。

各種セミナーの情報は**工賃向上事業のホームページ**の**新着情報**や**機関誌パッソ**でご案内しますのでご注意ください。

第1回技術セミナー「大阪スイーツ交流会」

●7月10日 ドーンセンター

関西の自治体と支援機関が協力して、毎年兵庫県で開催されている「スイーツ甲子園」において昨年グランプリ等に輝いた事業所を関西各県からお招きして「大阪スイーツ交流会」を開催します。新商品の開発や新しい販路の拡大に頭を悩ませておられる事業所さんはぜひご参加ください。また、府内からもパッケージ改善の取り組みをしている団体の取り組みも報告していただきます。

第1回経営セミナー「雑貨店経営」

●7月23日 大阪府社会福祉会館

大阪の谷町で雑貨店「我趣(われっしゅ)」を運営されている紺野さんをお招きします。当日は雑貨店経営についていろいろお話いただく予定ですが、すてきな雑貨商品もたくさん取り扱われていますので雑貨の製作をされている施設の方にも参考になるのではないのでしょうか。

第2回技術セミナー

「デコパージュ石鹸作りを体験する」

●7月29日 堺市総合福祉会館

●7月30日 大阪市教育会館

何か新しい製品づくりに取り組みたいと考えても、設備が必要だったり、材料費が捻出できないなど結構制約があったりします。そこで取り組みやすい製品をご紹介しますセミナーとして雑貨製作の体験を企画しました。同じ内容で日程をふたつ設定しましたので都合の良い日にどうぞ。

おしごと情報

お問い合わせ

電話06-6949-3551

FAX06-6920-3522

No.1

線香の箱折り、封入作業！

※お申込みは、工賃引上げ計画シート提出済みの事業所が対象となります。

作業内容

A 箱折り

マチあり…単価：1.5円/1箱

マチなし…単価：1円/1箱

B 封入作業

線香を計量し、緩衝材に包み封入する。単価：2.5円/1個

作業条件

作業量：1日につきA、B、Cいずれも1,000セット。

納品：堺東近辺にある企業へ、毎日納品、商材の引き取りが必要。

C 箱折り & 封入作業

箱折りと封入の一連の作業を行う。

単価：5円/1箱

★申し込み期限

7/11(金)

担当：小山まで

まいど!!! 共同販売shopです!

“ギャラリー みなみかぜ”

場所：堺市南区役所 みなみかぜ交流ひろば
営業日：月～金 営業時間：午前10時～午後3時



障がい者事業所を「もっとみんなに知ってほしい」

そう願って活動を始めたのは2008年。

南区にある事業所1施設ごとに声をかけ、同時に、南区役所の地域福祉課と話し合いを重ねた結果、玄関前広場とエントランスで月1回の共同販売、施設紹介パネル展示、もちつき、コンサートなどの啓発活動を中心にいろいろなことにチャレンジされてきました。

『南区から新しい風を吹かそう!』そんな思いでグループ名を“ギャラリーみなみかぜ”と名付けられたそうです。

そして、昨年6月からは、15の事業所と地域福祉課がタッグを組み、『市民の方が気軽に集える広場』をテーマに区役所の交流スペースで、喫茶コーナーと自主製品の共同販売に取り組みられています。特に、区役所周辺に「食べる店がない」との職員のニーズと地域の方々の声に応じてお弁当やパンなどを販売してからは来客数がぐんと増え、1か月で約80万円の売り上げをあげられています。

“ギャラリーみなみかぜ”は『協力・共同・感謝』という考え方で運営しています」と力強く語っていただいたのは広報担当者。この考え方を支えているのが、毎月行われている2つの運営会議だそうです。

「ひとつは、15の事業所と社会福祉協議会、堺市授産活動支援センター、地域福祉課も入り、南区の市民や障がいのある人もより住みやすいまちづくりにしていくにはどう考えていくか?ということと同じ方向を向いて集っている会議です。この会議では販売に留まることなく、まちづくりに関する様々なことを話し、社会貢献事業に関心の高い企業なども参加されます。

もうひとつは、事業所の代表者2名と南区役所の地域福祉課、企画総務課、子育て支援課のそれぞれの課長が同席して行われる会議です。事業所と一緒にできることを縦割り行政ではなく、常に一緒に考え、互いに協力して実現しています」交流スペースでの毎日の販売もその成果のひとつだそうです。

最後に、地域の皆さんに役に立つ新しい挑戦!を話していただきましたが、その話はまたの機会に。